

これまでと同じ活動に取り組む仲間に分かれ、主に絵画や織りなどの表現活動とウエス作りを行っています。これまでと見通しの持ちやすさから落ちていて仕事に向かう姿が見られます。それも座席配置や使い慣れた道

「はれ」での仕事



く仲間があります。そうした気にかけてくれる人が身近にいるというのが何よりもここは自分の居場所であると実感できる支えになっていると思います。

「はれ」ができた場所は川口太陽の家のすぐ向かい、自宅から「はれ」に暮らしの場を移した多くの仲間たちは長年、川口太陽の家で一緒に仕事をしてきた仲間たちです。そこで一緒に仕事をしてきた職員も多数、「はれ」に異動しました。

開所した「はれ」はこの議論を具体化しながら運営しています。仲間たちの今の姿は、その配慮が十分生

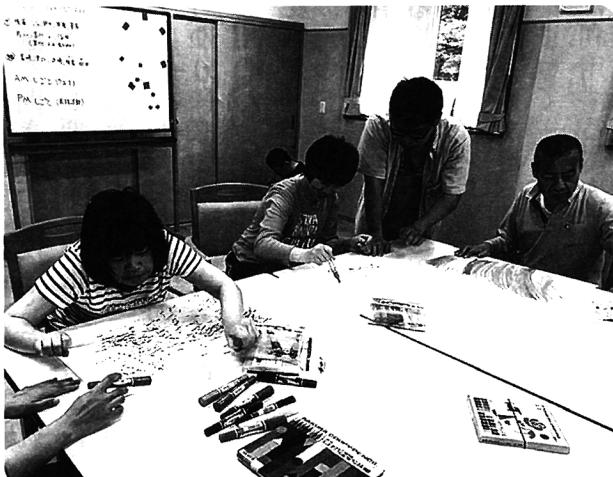
じています。

開所した翌日から日中活動が始まりました。班は「オハナ班」「ピース班」「サクラきらつと班」の3つに分かれ、主に絵画や織りなどの表現活動とウエス作りを行っています。これまでと見通しの持ちやすさから落ちていて仕事に向かう姿が見られます。それも座席配置や使い慣れた道

文化的な取り組み

生活や仕事だけではなく、自治や余暇などの文化的な取り組みも始めています。「はれ」の自治会では6月から立候補してくれた10名の仲間と共に、自分たちの生活のこと、仕事のことを考えています。

8月には自治会の仲間が意見出し合いで、夏プログラムとしてバーベキューや海へのドライブ、花火など



「はれ」に入所してから、やり取りをする中でほしいものと行きたい場所を自分なりの言葉と伝え方で示してくれたので、「はれ」での初めてのお給料を持って外出に行きました。長い時間をかけて欲しいものを選んで買うことができ、嬉しそうにしているKさんに帰りの車中、こんなことを聞いてみました。

「はれ」には自分のベッドがあつて、ショートステイとどっちがいい? するとKさんは少し考えた末「『はれ』がいい」と答えました。「どうして?」と聞くと、Kさんはこう答えていました。

「はれ」には自分のベッドがあつて、眠れるから

私はKさんのこの答えはいろいろな意味を含んでいるように思えます。自分が自分の自分らしい空間や生活が保障される、安心できる居場所がある、自分のことを理解してくれる人がいる、そんな当たり前のことを大切にしていかなければいけないと改めて感じました。そんな風に

答えてくれたKさんに「こうしてお給料で欲しいものを買つたりして、自分の部屋に増やしていくこうね」と返しました。

「はれ」での生活はまだ始まつばかりです。

先日、仲間のKさんの要望で買い物に行きました。Kさんは「はれ」に入所するまで約3年間ロングショートとなりました。「はれ」の中に

「はれ」に入所してから、やり取りをする中でほしいものと行きたい場所を自分なりの言葉と伝え方で示してくれたので、「はれ」での初めてのお給料を持って外出に行きました。長い時間をかけて欲しいものを選んで買うことができ、嬉しそうにしているKさんに帰りの車中、こんなことを聞いてみました。

「はれ」には自分のベッドがあつて、ショートステイとどっちがいい? するとKさんは少し考えた末「『はれ』がいい」と答えました。「どうして?」と聞くと、Kさんはこう答えていました。

「はれ」には自分のベッドがあつて、眠れるから

私はKさんのこの答えはいろいろな意味を含んでいるように思えます。自分が自分の自分らしい空間や生活が保障される、安心できる居場所がある、自分のことを理解してくれる人がいる、そんな当たり前のことを大切にしていかなければいけないと改めて感じました。そんな風に

答えてくれたKさんに「こうしてお給料で欲しいものを買つたりして、自分の部屋に増やしていくこうね」と返しました。

「はれ」での生活はまだ始まつばかりです。

先日、仲間のKさんの要望で買い物に行きました。Kさんは「はれ」に入所するまで約3年間ロングショートとなりました。「はれ」の中に

おひさま通信

障害者支援施設「はれ」開所を迎えて

はれ

障害者支援施設「はれ」が開所して5か月が過ぎました。障害支援区分の平均区分が5.9で、非常に障害の重い仲間集団ですが、私たちの心配をよそに、開所時から想像以上に仲間たちは落ち着いて過ごしています。

「はれ」を作っていく過程では「今まで積み上げている、関係や活動を大切にする」「日中活動を充実させること」「ユニットによる小集団の生活集団の単位」等を議論してきました。



「はれ」ができた場所は川口太陽の家の暮らしの場を移した多くの仲間たちは長年、川口太陽の家で一緒に仕事をしてきた仲間たちです。そこで一緒に仕事をしてきた職員も「はれ」に異動しました。

開所した「はれ」はこの議論を具体化しながら運営しています。仲間たちの今の姿は、その配慮が十分生じています。

朝食、夕食はユニットごとに食事をします。食事の時間が近づくと、仲間たちは厨房職員が来るのを待ち構え、ユニットのキッチンで食事の盛り付けが始まると、嬉しそうにその様子を見つめています。食事は一ひとに炊いているご飯もその仲間の食事形態やこだわりなどに合わせて、硬さを変えています。そうした職員の細かな気づきや配慮、厨房職員との連携が安心できる暮らしにつながっています。

一緒に生活する仲間の顔ぶれもとても重要です。家庭やこれまで慣れ親しんだ日中の場を離れて、新しい場所で生活をし、仕事をすることにいたと思います。それでも「はれ」の仲間たちはとても大きな不安を抱えています。もちろん一人ひとりの居室が通所していた施設や短期入所をしていた施設、グループホームなど関係施設ではどんな様子で過ごし、どんなことを大切にしてきたのか、法

人内外問わず全員の情報を集めました。場所が変わっても仲間たち一人ひとりが積み重ねてきた活動や実践が継続されるよう努めました。

ユニットでの生活

仲間たちは6、7人の小集団で6つのユニット（男性4ユニット、女性2ユニット）に分かれて生活しています。もちろん一人ひとりの居室があり、テレビやDVD、ぬいぐるみなど、お気に入りのもの、安心でいた施設ではどうなったのか、法

が通所していた施設や短期入所をしていた施設、グループホームなど関係施設ではどんな様子で過ごし、どんなことを大切にしてきたのか、法

が準備を進めていましたが、この段階で大切にしたことの一つとしてあげられるのは、仲間たち一人ひとりの情報です。面談では家族そして本人から家庭での様子を聞かせてもらいましたが、入所できる喜びや寂しさ、期待と不安を感じられる機会にいましたが、入所する仲間が通所していた施設、グループホームなど関係施設ではどんな様子で過ごし、どんなことを大切にしてきたのか、法

